

第49回 県政に関する世論調査の結果について

平成27年5月29日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2469

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は本年度2回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に実施しました。

具体的な内容としては、高齢者福祉施策、医療、ワーク・ライフ・バランス、環境保全に関する取組、道路整備、青少年の健全育成、起業・創業、県民の文化芸術活動、男女共同参画社会の形成促進、県民の治安に対する意識と警察に求めること、社会全体での暴力団排除の推進について県民の意識調査及び「県政への要望」についての調査を行いました。

1 調査の設計

- (1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人
- (2) 標本数 3,000人
- (3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。
- (4) 調査方法 郵送法(郵送配付一郵送回収)
- (5) 調査時期 平成26年11月27日～12月15日

2 回収結果

有効回収数(率) 1,442(48.1%)

3 調査の項目

県政の主要課題

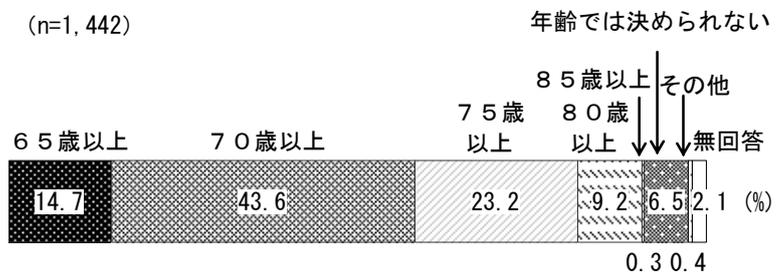
- ① 高齢者福祉施策について
- ② 医療について
- ③ ワーク・ライフ・バランスについて
- ④ 環境保全に関する取組について
- ⑤ 道路整備について
- ⑥ 青少年の健全育成について
- ⑦ 起業・創業について
- ⑧ 県民の文化芸術活動について
- ⑨ 男女共同参画社会の形成促進について
- ⑩ 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
- ⑪ 社会全体での暴力団排除の推進について

4 調査の結果

1 高齢者福祉施策について

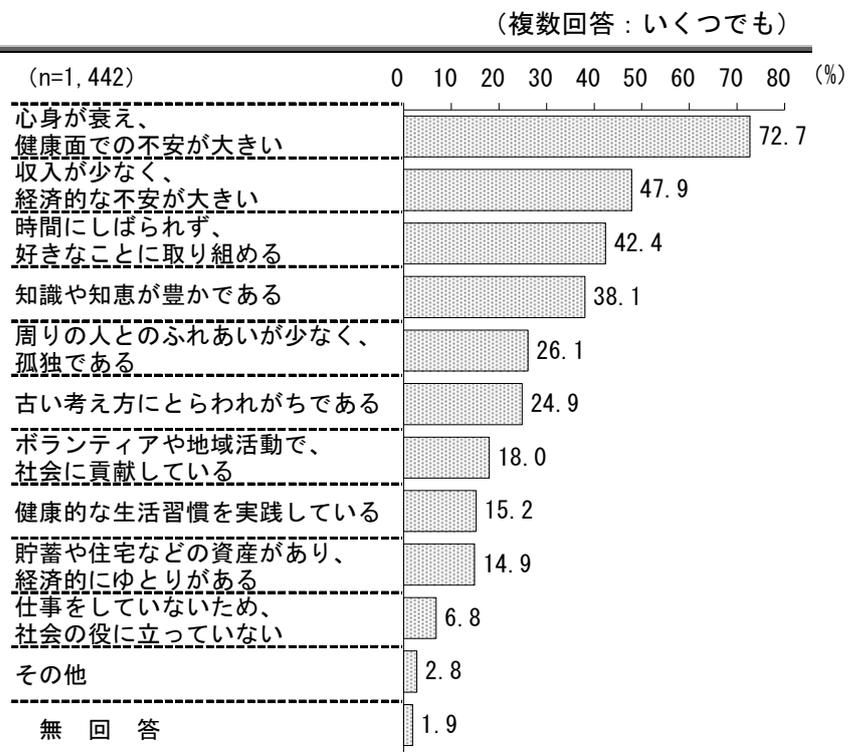
(1) 高齢者の年齢

「高齢者」とは何歳くらいかと考えるかを聞いたところ、「70歳以上」(43.6%)が4割台半ばと最も多く、「65歳以上」(14.7%)とした人は、1割台半ばにとどまる。



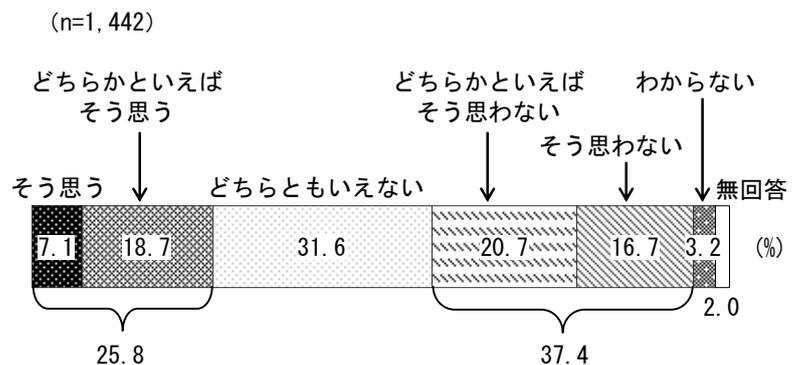
(2) 高齢者のイメージ

「高齢者のイメージ」を聞いたところ、「心身が衰え、健康面での不安が大きい」(72.7%)が7割を超えて最も多く、以下、「収入が少なく、経済的な不安が大きい」(47.9%)、「時間にしばられず、好きなことに取り組める」(42.4%)、「知識や知恵が豊かである」(38.1%)、「周りの人とのふれあいが少なく、孤独である」(26.1%)、「古い考え方にとらわれがちである」(24.9%)が続く。



(3) 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っているか

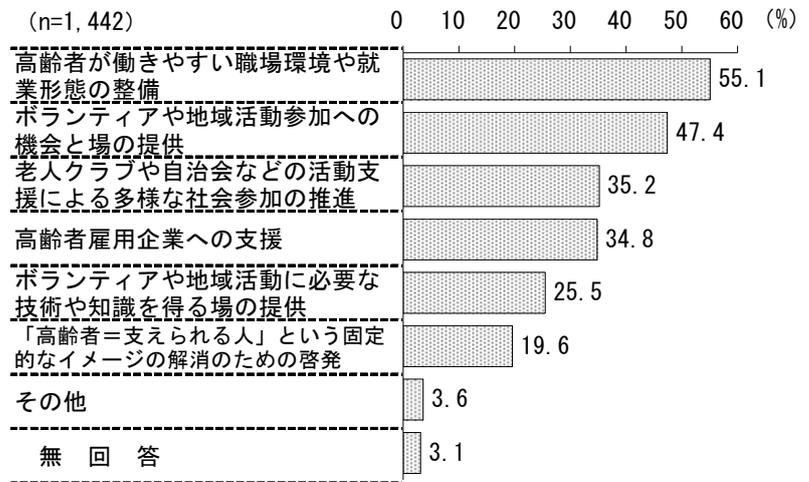
高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(7.1%)、「どちらかといえばそう思う」(18.7%)を合わせた『そう思う』(25.8%)は2割台半ばである。一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.7%)、「そう思わない」(16.7%)を合わせた『そう思わない』(37.4%)が、約4割となっている。



(4) 高齢者が活躍できる生活を送るために必要な施策

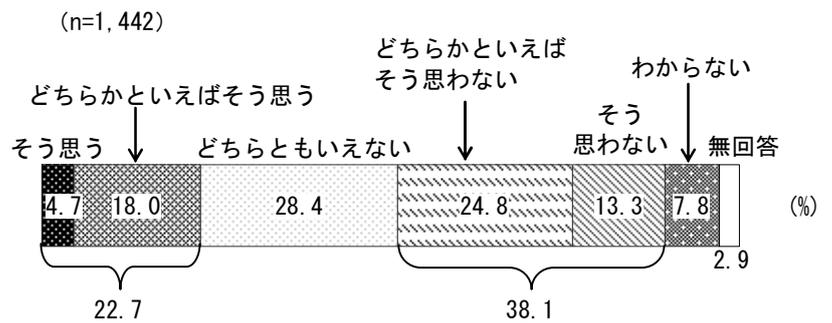
(複数回答：いくつでも)

高齢者が活躍できる生活を送るために、どのような施策が必要であるかを選んでもらったところ、「高齢者が働きやすい職場環境や就業形態の整備」(55.1%)が5割台半ばで最も多く、以下、「ボランティアや地域活動参加への機会と場の提供」(47.4%)、「老人クラブや自治会などの活動支援による多様な社会参加の推進」(35.2%)、「高齢者雇用企業への支援」(34.8%)が続く。



(5) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っているか

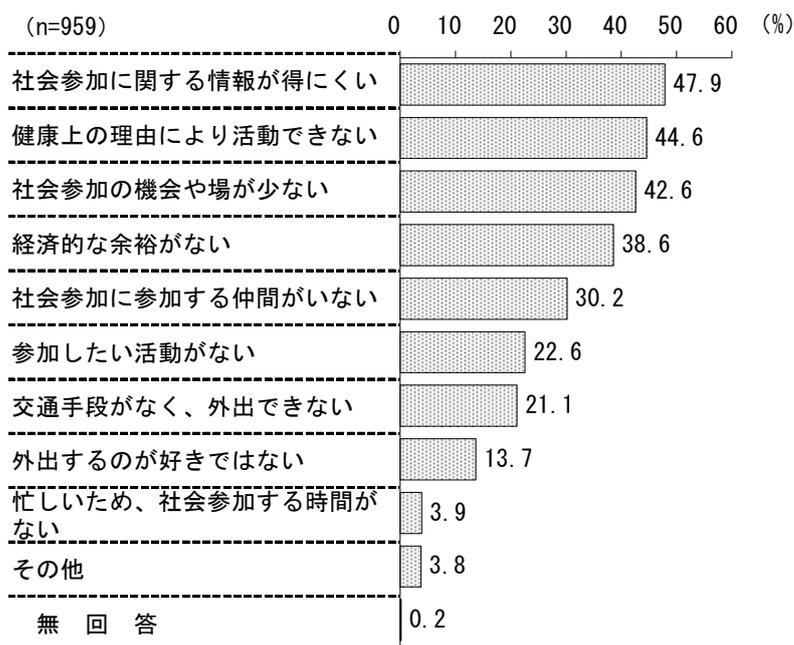
高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.7%)、「どちらかといえばそう思う」(18.0%)を合わせた『そう思う』(22.7%)は2割にとどまる。一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.8%)、「そう思わない」(13.3%)を合わせた『そう思わない』(38.1%)は、約4割となっている。



(6) 高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活していないと思う理由

(複数回答：いくつでも)

高齢者が社会とかかわりを持ちながら生活を送っていると思うかとの設問に対し、『どちらともいえない～そう思わない』と回答した959人に、その理由を聞いたところ、「社会参加に関する情報が得にくい」(47.9%)が約5割で最も多く、以下、「健康上の理由により活動できない」(44.6%)、「社会参加の機会や場が少ない」(42.6%)、「経済的な余裕がない」(38.6%)が続く。



《「高齢者福祉施策について」の自由回答（抜粋）》

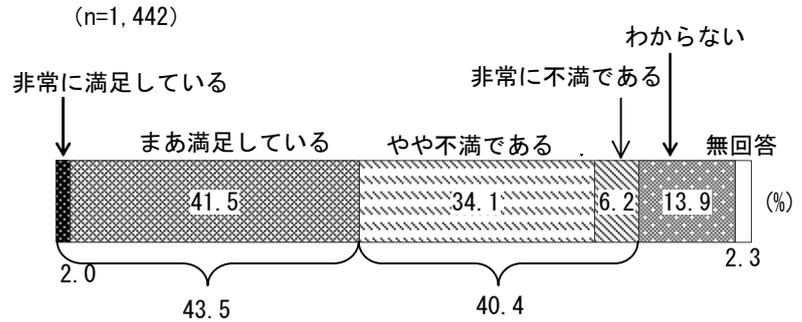
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、266人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 身体の健康はもちろんですが心の健康につながる老人が元気に自信をもって頑張れる環境や場をつくることも必要ではないかと思います。(女性、65歳以上、印旛地域)
- 経済的に不安のある方は自治会、町会などにも参加しにくいと不安を言う方もいます。話し相手がない方も。そんな気持ちをきくと淋しさが増しますが、人と話すという大事さが考えられます。サロンなどが多くなってきていますが、こられない方への目配り気配りができるような組織があると良いと思います。(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- 高齢者の方にしかできないことがあると思う。昔のことは、その時代に生きた方しか知らない。それをついだり、聞いたりするのは、後世の発展のために重要なことだと思う。それは子供たちだけでなく、大人も同じだと思う。大人も高齢者を毛嫌いするのではなく、学ぶべきだと思う。(女性、50代、印旛地域)
- 60～70才位は元気な方が多くおられると思われるので高齢者が働きやすい環境づくりが要となる。(男性、60～64歳、千葉地域)
- 一人暮らしの高齢者を巡回して、色々な事柄の相談相手の人間の配置が必要だと思います。問題が起きた時、どこに相談したら良いか分からない場合がある。(男性、65歳以上、東葛飾地域)

2 医療について

(1) 県内の医療の満足度

千葉県内の医療についての満足度を聞いたところ、「非常に満足している」(2.0%)、「まあ満足している」(41.5%)を合わせた『満足している』(43.5%)は4割台半ばである。一方、「やや不満である」(34.1%)、「非常に不満である」(6.2%)を合わせた『不満である』(40.4%)は4割となっている。

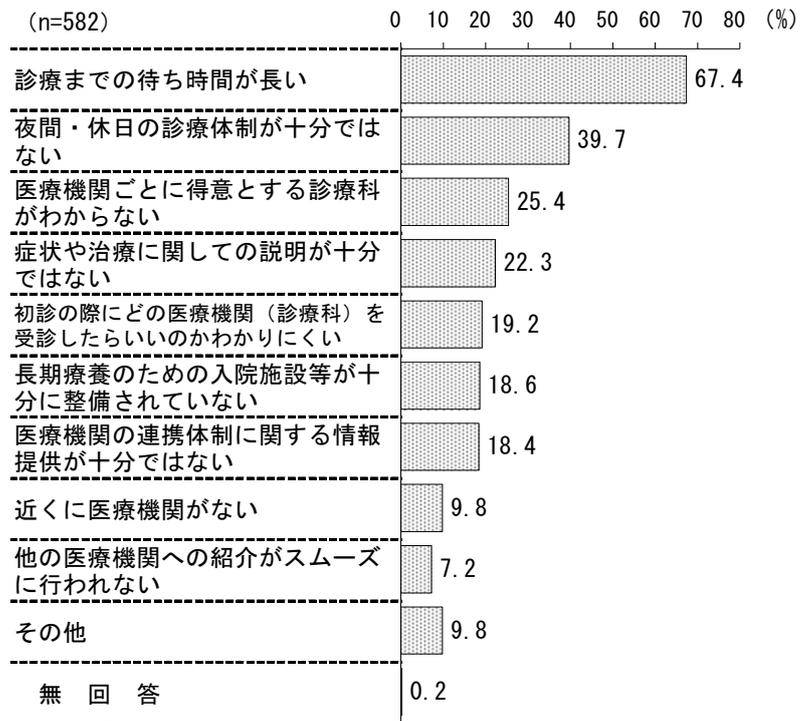


(2) 県内の医療で不満な点

(複数回答：3つまで)

千葉県内の医療について『不満である』と回答した582人を対象に、不満な点を3つまで選んでもらったところ、「診療までの待ち時間が長い」(67.4%)が約7割で最も多い。

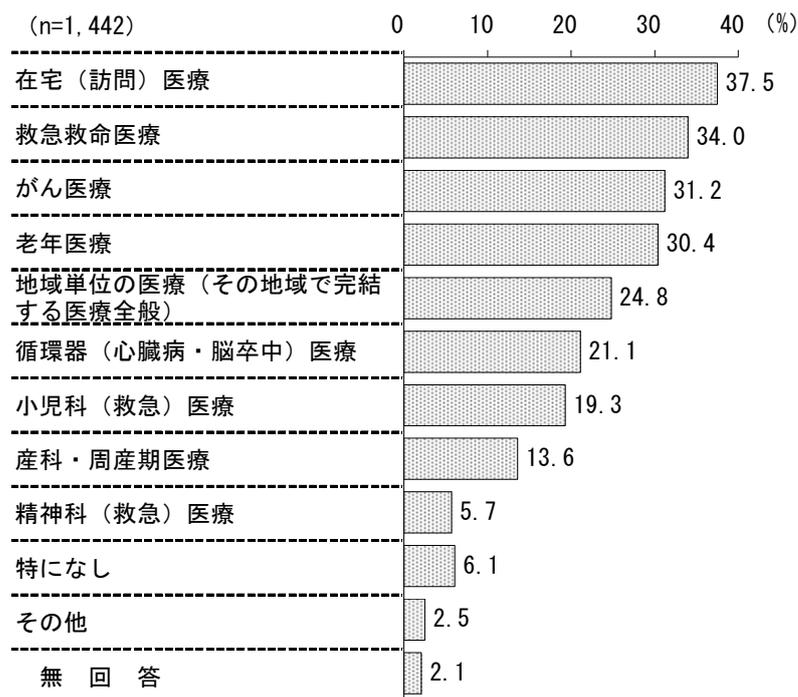
以下、「夜間・休日の診療体制が十分ではない」(39.7%)、「医療機関ごとに得意とする診療科がわからない」(25.4%)、「症状や治療に関する説明が十分ではない」(22.3%)が続く。



(3) 今後、県に力を入れて欲しい医療

(複数回答：3つまで)

今後、県に力を入れてほしい医療について3つまで選んでもらったところ、「在宅（訪問）医療」（37.5%）が約4割と最も多くあげられ、以下、「救急救命医療」（34.0%）、「がん医療」（31.2%）、「老年医療」（30.4%）となっている。



《「医療について」の自由回答（抜粋）》

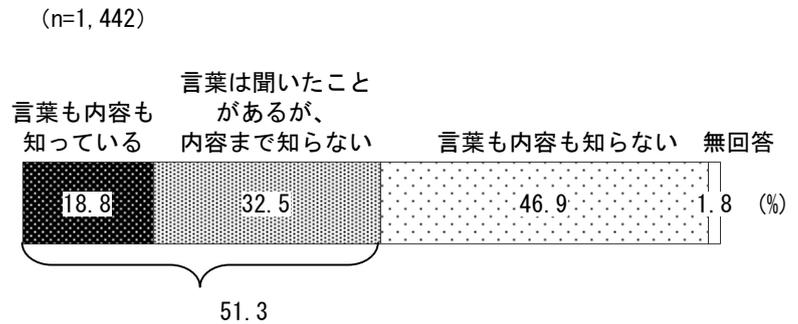
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、216人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 過度の医療からの脱却。ラジオ体操などやっている地域はあるのですか？ 県・市が積極的に場を作って、健康増進、医療費削減に取り組んでは？（男性、50代、葛南地域）
- 医療を必要とする前に、健康な生活が送れるような啓発活動や施策に力を入れて欲しい。（男性、40代、君津地域）
- 限られた医療資源を如何に効率的、効果的に利用していくかが重要だと考えます。医療機関ごとの役割分担を明確にして病院間での連携を図っていくような枠組み作りが急務ではないでしょうか。家庭医制度の推進など県レベルでできることを早急に進められることを要望致します。（男性、65歳以上、長生地域）
- 医療スタッフを増員する。（女性、20代、香取地域）
- 先日、小児救急でお世話になりました。受入の医師も何人かいて、適切な対応をして頂きました。夜間は人手不足などあると思いますが、医療スタッフの方に出来るだけ負担とならない環境づくりを願います。（男性、30代、葛南地域）
- 待ち時間は1時間で診察は5分位で、いつも高血圧の薬を出してもらっています。患者は医師に思った事はなかなか言えません。医師の方から患者に話しかける指導をお願いします。（女性、65歳以上）

3 ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」言葉の認知度

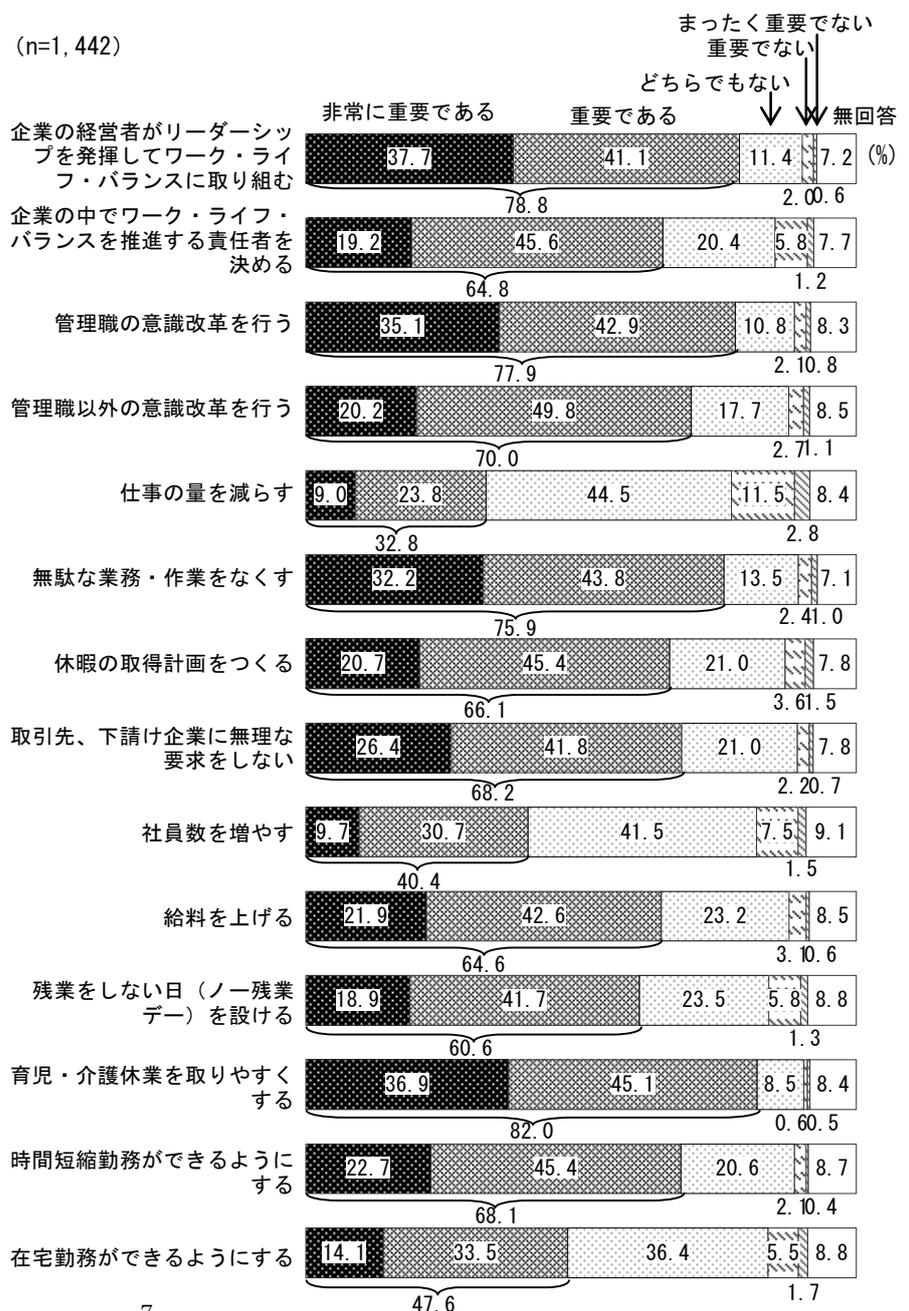
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉を知っているかを聞いたところ、「言葉も内容も知っている」(18.8%)、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」(32.5%)を合わせた『知っている』(51.3%)は5割を超える。



(2) 実現社会に近づくための取り組み重要度

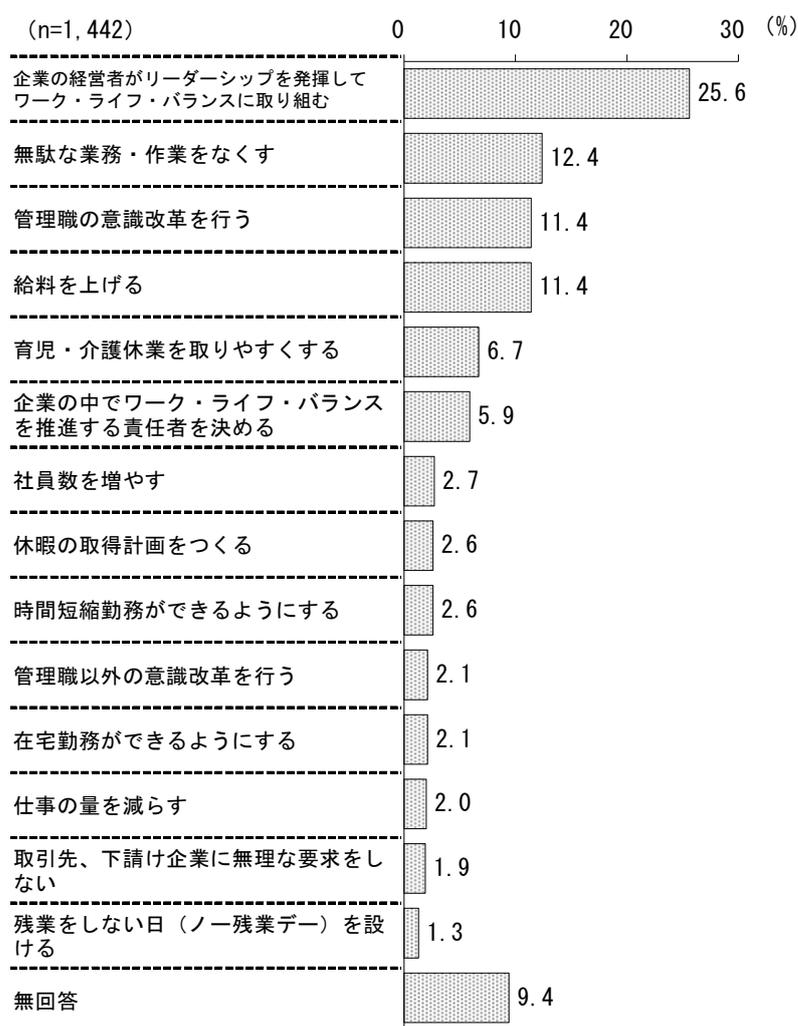
「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために各14項目がどの程度重要であるかを聞いたところ、「育児・介護休業を取りやすくする」(82.0%)が、「非常に重要である」、「重要である」を合わせた『重要である』が8割を超え、最も高い。

他の『重要である』が高い項目は、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」(78.8%)、「管理職の意識改革を行う」(77.9%)が約8割、「無駄な業務・作業をなくす」(75.9%)が7割台半ば、「管理職以外の意識改革を行う」(70.0%)が7割となっている。



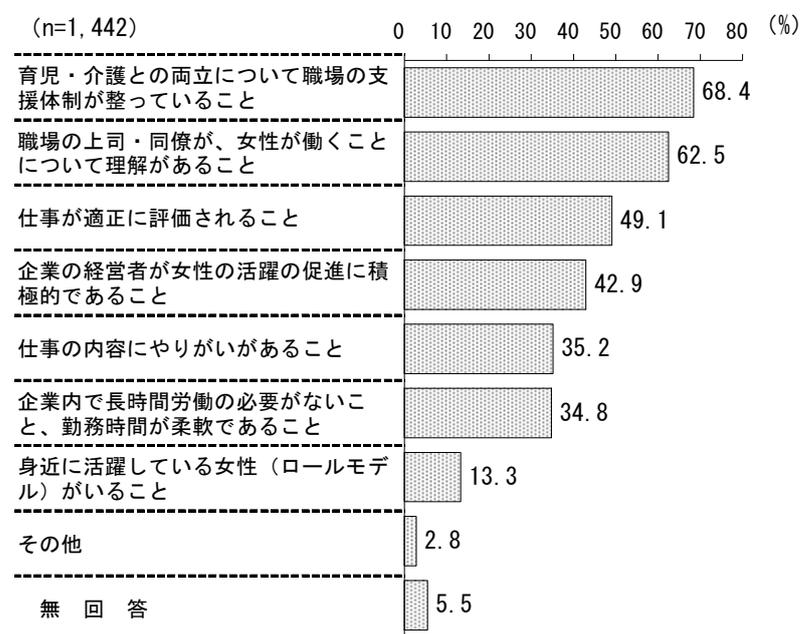
(3) 取り組みの中で最も重要なこと

14項目の中で、「企業の経営者がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」(25.6%)が最も高く、「無駄な業務・作業をなくす」(12.4%)、「管理職の意識改革を行う」「給料を上げる」(ともに11.4%)となっている。



(4) 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要な条件 (複数回答: いくつでも)

女性が活躍できる仕事・職場環境にするためには、「育児・介護との両立について職場の支援体制が整っていること」(68.4%)が約7割と最も高くなっている。以下、「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(62.5%)、「仕事が適正に評価されること」(49.1%)、「企業の経営者が女性の活躍の促進に積極的であること」(42.9%)となっている。

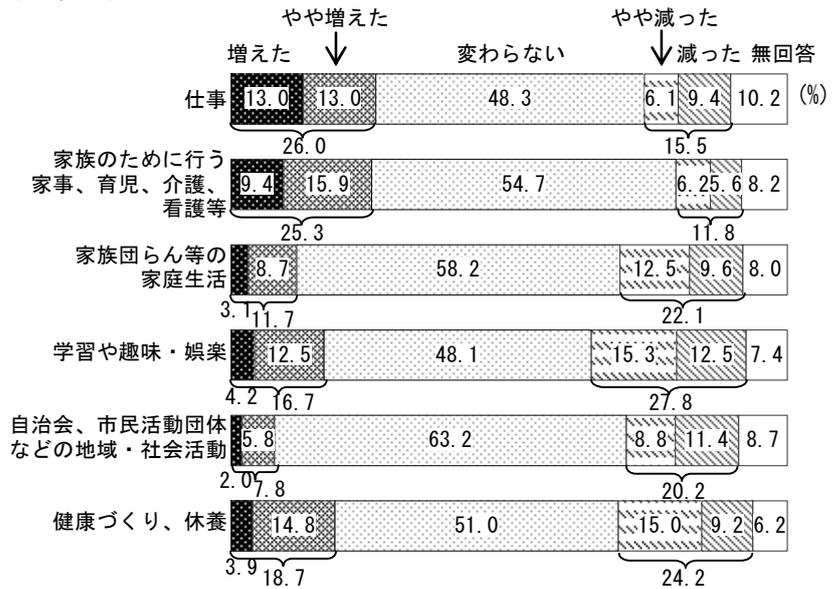


(5) 1年前と比べて生活ごとの時間変化

1年前と比べて生活ごと6項目の時間変化を聞いたところ、「増えた」、「やや増えた」を合わせた『増えた』割合をみると、「仕事」(26.0%)、「家族のために行う家事、育児、介護、看護等」(25.3%)が、2割台半ばである。

一方、「やや減った」「減った」を合わせた『減った』割合をみると「学習や趣味・娯楽」(27.8%)が約3割、「健康づくり・休養」(24.2%)が2割台半ばとなっている。

(n=1,442)



《「ワーク・ライフ・バランスについて」の自由回答（抜粋）》

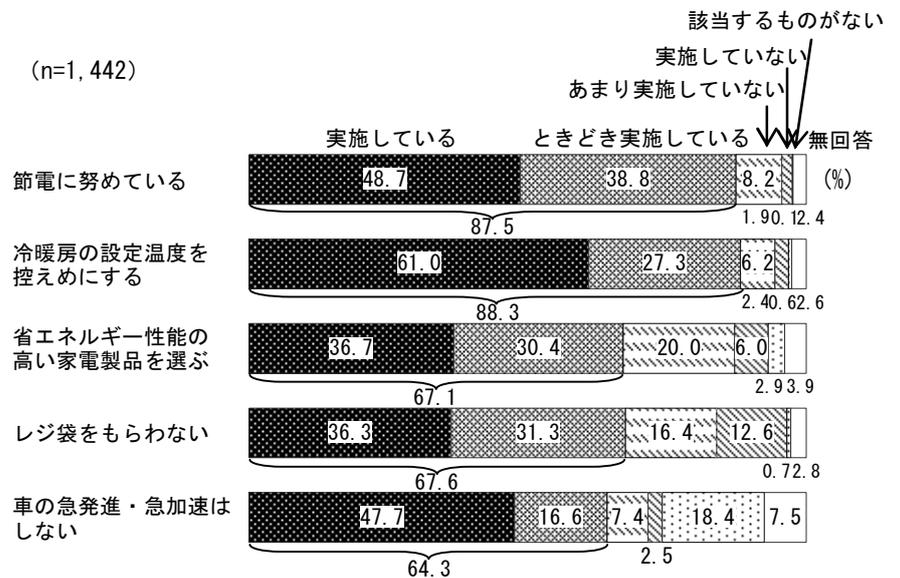
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、179人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 会社のトップの方達が、「ワーク・ライフ・バランス」についてよく理解し、賛同してくれない事には、現実的には働いている人間はどうしようもないと思う。そういうバランスのとれた生き方をしたくても、トップが賛同し、動いてくれないなら、全く意味がないと思う。職場環境が変わるにはトップが動かないと…。(女性、30代、東葛飾地域)
- 子供ができると、職場での立場が悪くなったり、肩身の狭い思いをするのは残念なことである。少しでもバランスのとれた社会が実現されればいいと思う。(女性、30代、印旛地域)
- 経営者側の意見も取り入れ、日本の経済状況をふまえた現実的な取り組みになることを期待しています。キレイ事だけでは、社会は成立しません。(女性、20代、東葛飾地域)
- 言葉が先行し過ぎている。むしろ多様性(ダイバーシティー)を許容する社会が望ましい。ワーク一辺倒が決して悪いことではない。また女性が専業主婦であることも一つの選択肢である。ワーク・ライフ・バランスをどうするか、個人・家庭の問題で、先ずそこをしっかりとっておくことが肝心。(男性、65歳以上、東葛飾地域)
- 常に人手不足の職業の為バランスが全く取れない。福祉施設の職員は自分の生活を犠牲にして人の世話をしている。給料は平均以下だがバランスが全く取れない。(男性、30代、葛南地域)
- 適正な労働環境が整っていれば、自ずとワーク・ライフ・バランスは保てるものとする。従って各職場、企業に於いて労働環境の調査を行い、適正、合法的な労働環境が整備されるよう努めるべき。(男性、50代、葛南地域)

4 環境保全に関する取組について

(1) 普段の生活での取組実施状況

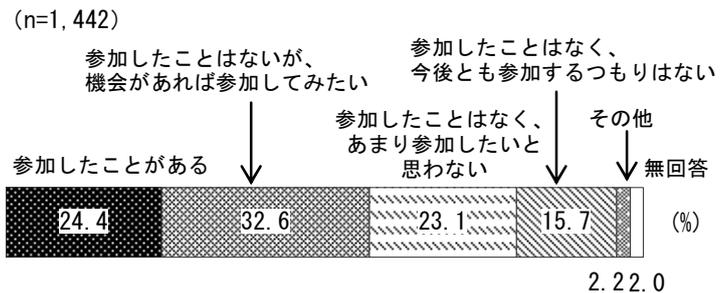
普段の生活での環境保全に関する取組状況で、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している』で見ると、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(88.3%)、「節電に努めている」(87.5%)が約9割と、5項目の中では高くなっている。



(2) セミナーやボランティア活動の参加経験

県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動に「参加したことがある」(24.4%)は2割半ばである。

また、「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(32.6%)が3割を超える。



《「環境保全に関する取組について」の自由回答（抜粋）》

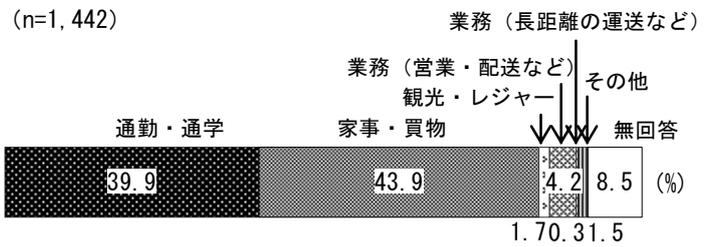
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、131人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 環境保全に関しては、人々の習慣によるものが大きいので、効果が出るまでに時間がかかるものがあると思うので、長期的な視点で計画を立てるべきだと考える。(男性、20代、印旛地域)
- 何でも使い捨ての物があふれ、便利ではあるが環境保全の為にはならないと思う。リサイクルを考える以前に、1回使ったらゴミになる容器などできるだけなくすよう考えた方が良いと思う。(女性、50代、安房地域)
- 今まで以上に家庭や企業などへ節電等への呼びかけ強化(環境問題に興味を持ってもらう)。(男性、20代、葛南地域)
- 衣類のリサイクルBOX箱(ポスト)の設置、車社会に依存しない、自転車(サイクリングロード)の設置等、エコ社会に向けての基盤作りが大切だと思う。(女性、40代、千葉地域)

5 道路整備について

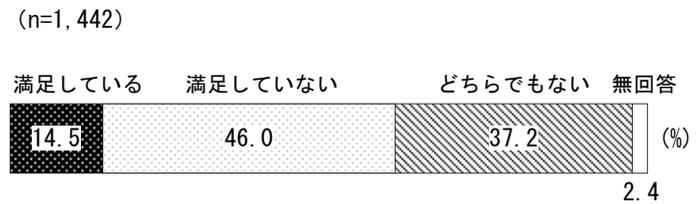
(1) 普段の生活での道路利用目的

普段の生活で「道路」を利用する目的は、「家事・買物」(43.9%)が4割台半ばと最も多く、次いで「通勤・通学」(39.9%)が約4割となっている。



(2) 県内の道路状況の満足度

千葉県内の道路状況に「満足していない」(46.0%)が4割台半ばとなっており、「満足している」(14.5%)は1割台半ばである。

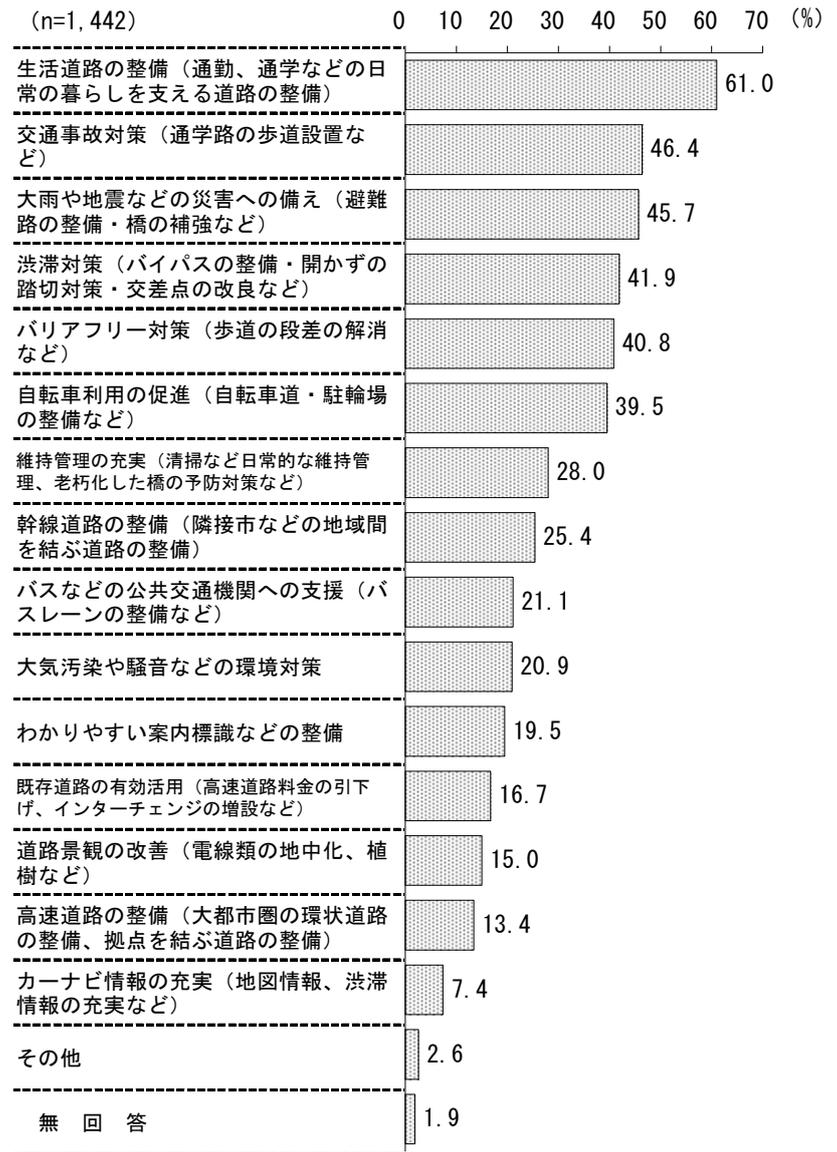


(3) 今後、優先的に対策すべき課題

(複数回答：いくつでも)

今後、道路整備で優先的に対策すべき課題として、「生活道路の整備（通勤、通学などの日常の暮らしを支える道路の整備）」(61.0%)が6割と最も高くなっている。

以下、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」(46.4%)、「大雨や地震などの災害への備え（避難路の整備・橋の補強など）」(45.7%)、「渋滞対策（バイパスの整備・開かずの踏切対策・交差点の改良など）」(41.9%)、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」(40.8%)、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」(39.5%)となっている。



《「道路整備について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、257人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○銚子連絡道路を早く実現して下さい。

(男性、65歳以上、海匝地域)

○都会と違い、田舎は通学路に歩道がありません。交通量が多く、道幅が狭い所は、とても危険です。(女性、40代、山武地域)

○車道、歩道、自転車道の分離は交通事故防止、歩行者保護の観点からも重要だと思います。

(男性、20代、千葉地域)

○歩道が狭くベビーカーで移動するのに歩道が通れない所も多いので、もう少し歩行者目線の整備もしてほしいです。(女性、30代、印旛地域)

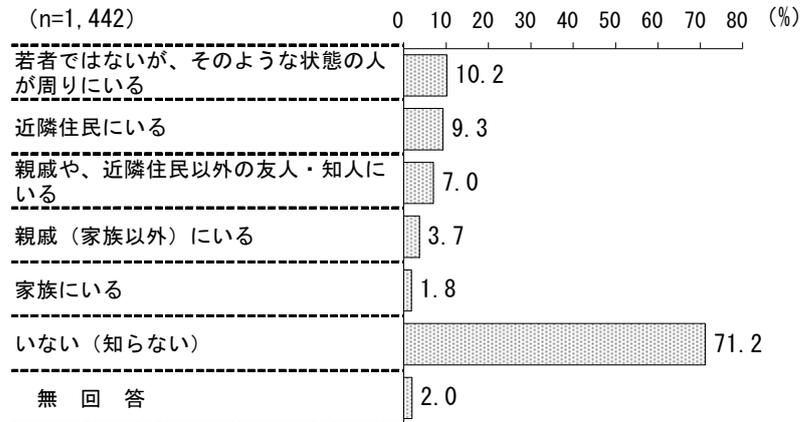
6 青少年の健全育成について

(1) 「ひきこもり」の若者の存在

(複数回答：いくつでも)

まわりに「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者が「いない（知らない）」(71.2%)が7割を超える。

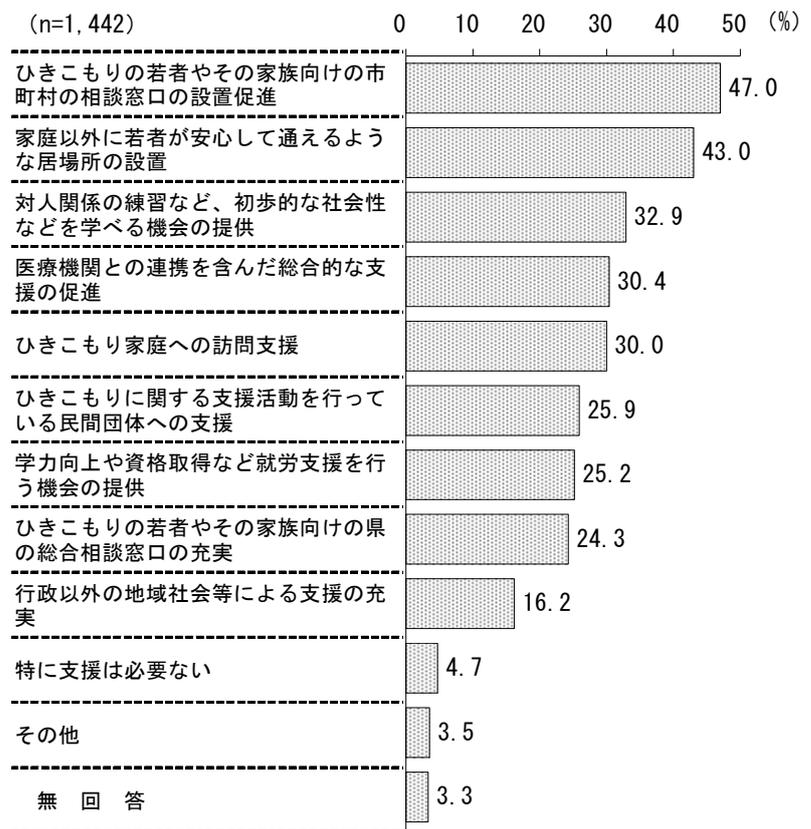
一方、「若者ではないが、そのような状態の人が周りにいる」(10.2%)が1割、「近隣住民にいる」(9.3%)、「親戚や、近隣住民以外の友人・知人」(7.0%)が約1割程度となっている。



(2) 「ひきこもり」の若者に必要な行政支援

(複数回答：いくつでも)

「ひきこもり」と呼ばれる状態の若者に対し、行政の支援として「ひきこもりの若者やその家族向けの市町村の相談窓口の設置促進」(47.0%)が約5割で最も多く、以下、「家庭以外に若者が安心して通えるような居場所の設置」(43.0%)、「対人関係の練習など、初歩的な社会性などを学べる機会の提供」(32.9%)、「医療機関との連携を含んだ総合的な支援の促進」(30.4%)、「ひきこもり家庭への訪問支援」(30.0%)が続く。

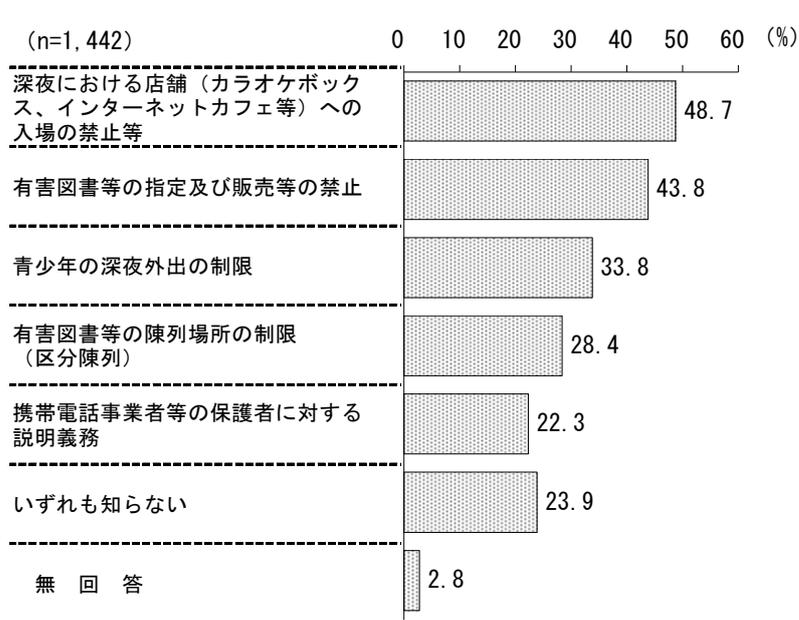


(3) 青少年健全育成条例で知っている内容

(複数回答：いくつでも)

青少年健全育成条例で知っている内容は、「深夜における店舗（カラオケボックス、インターネットカフェ等）への入場の禁止等」（48.7%）が約5割と最も多く、以下、「有害図書等の指定及び販売等の禁止」（43.8%）、「青少年の深夜外出の制限」（33.8%）となっている。

一方、「いずれも知らない」（23.9%）は2割台半ばとなっている。



《「青少年の健全育成について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、164人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

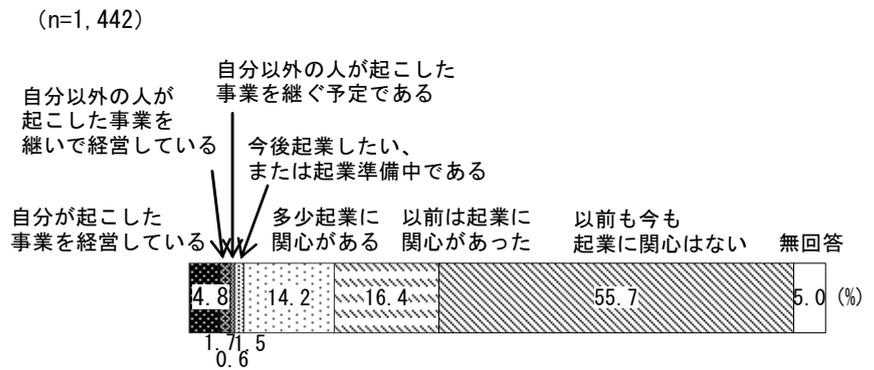
- 親、学校教育、企業を含めた社会全体、政治家を含めた全体的見地からのあらゆる倫理や道徳指導の必要性和環境整備。（男性、65歳以上、千葉地域）
- 禁止や制限をするだけでなく、正しい知識や情報を得る機会や場を設けると更に良いと思う。（男性、20代、印旛地域）
- 実は親の教育が必要です。親の意識がしっかりしていないと、かわいそうな家庭環境になります。昔も今も「やっていいこと・悪いこと」は同じです。家庭での話し合いの場が大切です。（女性、50代、葛南地域）
- 条例の制定や罰則（あるのかどうかも含め）、県民の理解が足りないのではないかと。条例内容の保護者会での説明や街頭でのパンフ配布等の積極的なアピールをするべき。（男性、30代、葛南地域）
- いわゆる「ひきこもり」のお子さんをお持ちのご家族のご要望を聞くことが第一である。第三者が行政はこうすべきだとは言えない（その苦しみや悩みは同情できても実感できない）。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 青少年を守るにはマスコミ、有害図書、携帯電話等の影響が大変大きいと思います。その様な物の普及にも、更に相当の制限が必要かと思えます。（女性、65歳以上、長生地域）

7 起業・創業について

(1) 起業の経験・関心

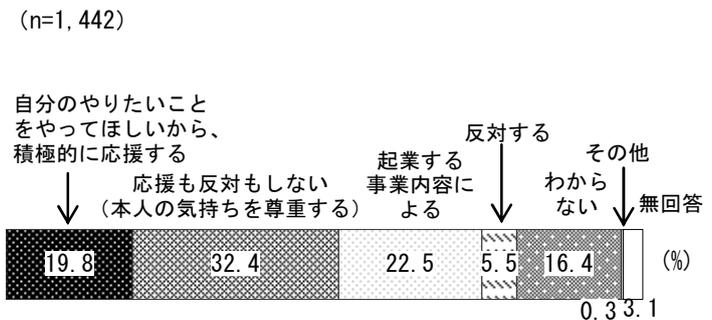
自身が起業することについて、経験・関心を聞いたところ、「自分が起こした事業を経営している」は4.8%だった。

「以前も今も起業に関心はない」(55.7%)が5割台半ばであり、「以前は起業に関心があった」(16.4%)、「多少起業に関心がある」(14.2%)が1割台半ばとなっている。



(2) 起業を相談された場合の評価

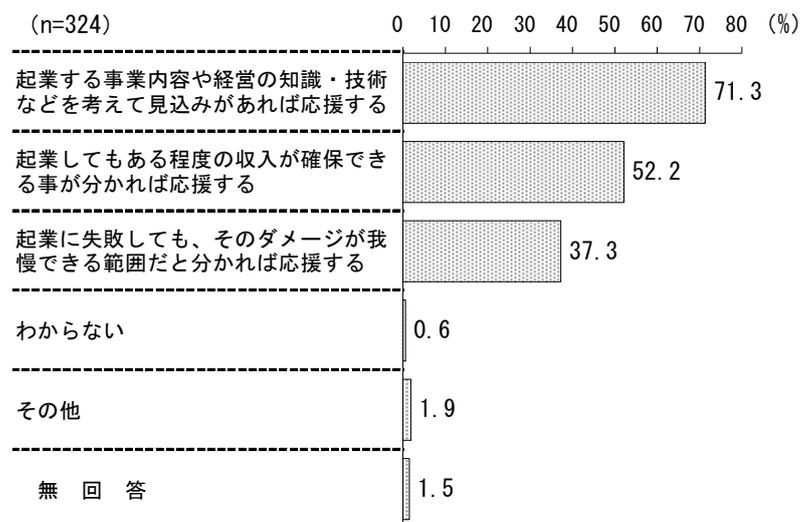
家族やごく身近な方から起業したいと相談を受けた場合、「応援も反対もしない(本人の気持ちを尊重する)」(32.4%)が3割を超えて最も高く、「起業する事業内容による」(22.5%)、「自分のやりたいことをやってほしいから、積極的に応援する」(19.8%)となっており、「反対する」は5.5%である。



(3) 起業を応援する場合の条件

家族やごく身近な方から起業したいと相談を受け、「起業する事業内容による」と評価した324人のうち、起業を応援する場合の条件は、「起業する事業内容や経営の知識・技術などを考えて見込みがあれば応援する」(71.3%)が7割と最も多い。

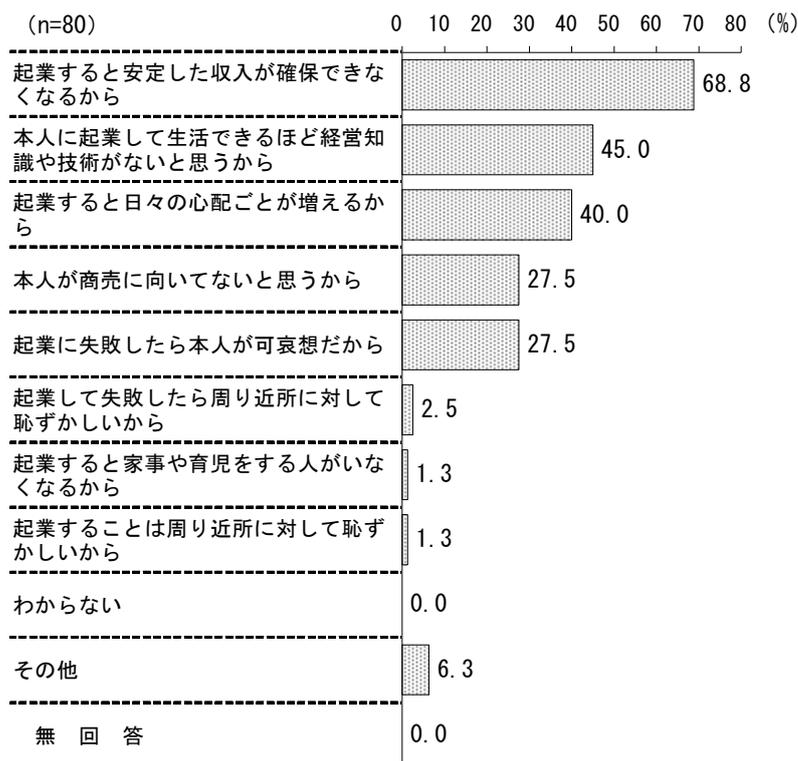
次いで、「起業してもある程度の収入が確保できる事が分かれば応援する」(52.2%)が5割となっている。



(4) 起業を応援しない理由

(複数回答：いくつでも)

家族やごく身近な方から起業したいと相談を受け、「反対する」と評価した80人のうち、起業を応援しない理由として「起業すると安定した収入が確保できなくなるから」(68.8%)が約7割と最も多い。

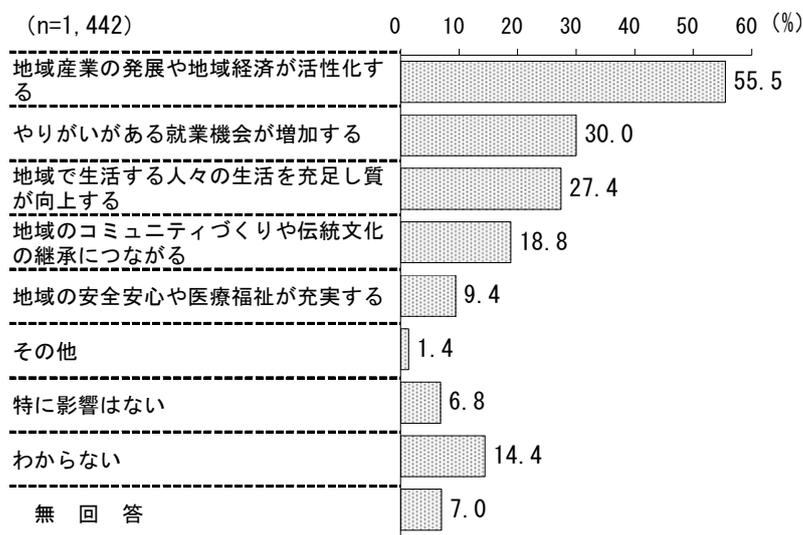


(5) 起業が増えると影響する内容

(複数回答：いくつでも)

起業が増えることでの影響は、「地域産業の発展や地域経済が活性化する」(55.5%)が5割台半ばと最も多い。

以下、「やりがいがある就業機会が増加する」(30.0%)、「地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する」(27.4%)、「地域で生活する人々の生活を充足し質が向上する」となっている。



《「起業・創業について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、77人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 自分では難しいと思うが、若者の働く所が増え、地方にとどまり、高齢化がくい止められれば良いと思う。（女性、50代、安房地域）
- 若い人がトライしやすい、支援環境（セミナーとか経済的援助とか）を作って欲しい。またそういった情報に触れやすい工夫をして欲しい。（女性、30代、葛南地域）
- 海外のように、その起業内容などに興味があれば、少額でも投資できるような仕組みがあれば主婦でも投資が出来、起業者や創業者にもメリットがあると思います。その仲介役に県がなればみんな信用できるのでは？（女性、40代、千葉地域）
- 起業すると、盆踊りなどに寄付したり、地元の名を（町会長など）覚えたりして積極的にかわれるのでコミュニケーション作りにも役立つと思う。（女性、40代、東葛飾地域）

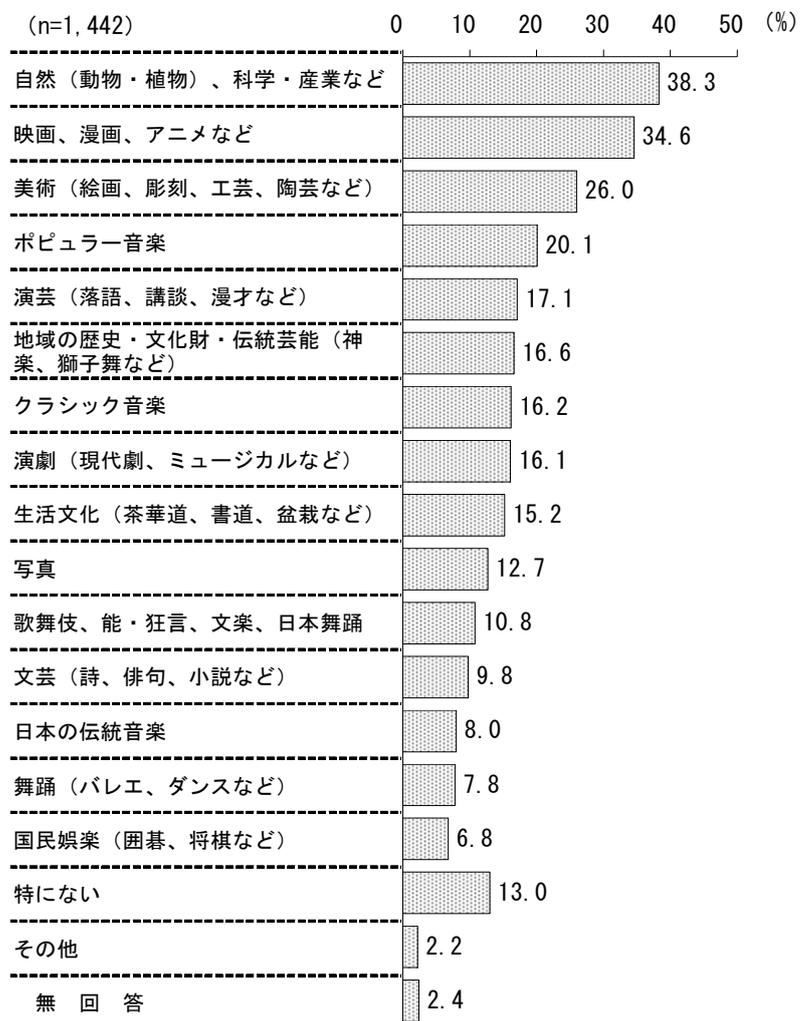
8 県民の文化芸術活動について

(1) 特に関心を持っている文化芸術

（複数回答：いくつでも）

特に関心を持っている文化芸術として「自然（動物・植物）、科学・産業など」（38.3%）が約4割と最も多くあげられた。以下、「映画、漫画、アニメなど」（34.6%）、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」（26.0%）、「ポピュラー音楽」（20.1%）となっている。

「特にない」（13.0%）は全体の1割程度となっている。

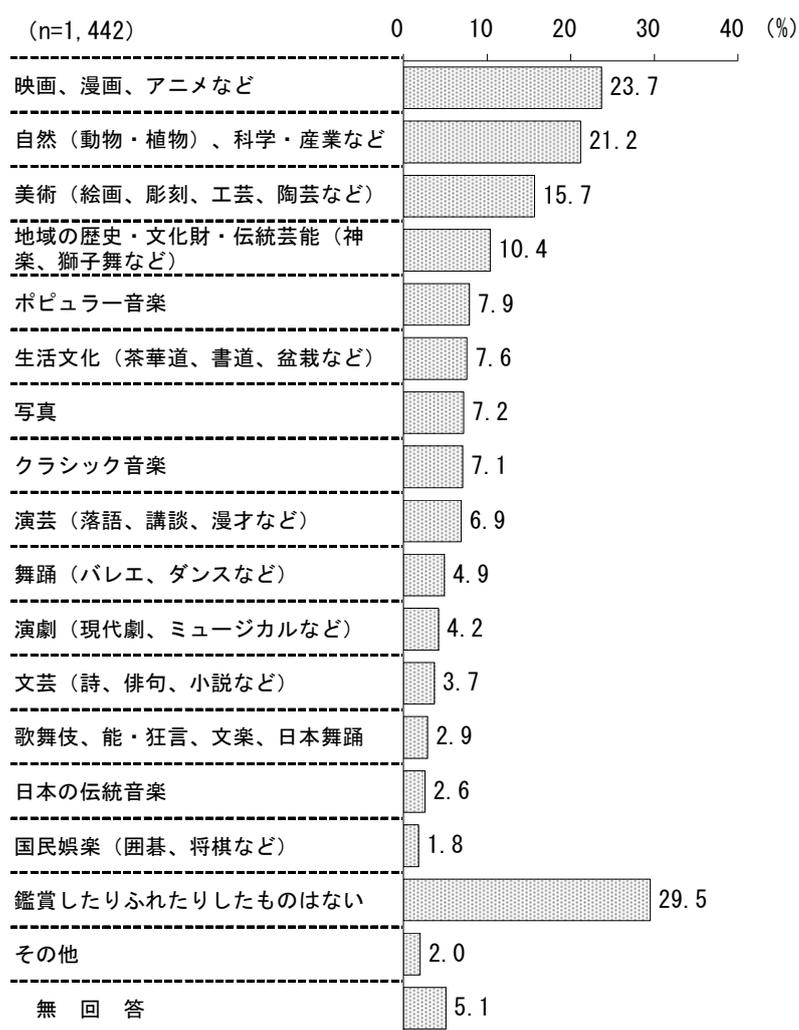


(2) この1年間に県内でふれた文化芸術

(複数回答：いくつでも)

この1年間に県内でふれた文化芸術では、「映画、漫画、アニメなど」(23.7%)が2割台半ばで最も多く、以下、「自然(動物・植物)、科学・産業など」(21.2%)、「美術(絵画、彫刻、工芸、陶芸など)」(15.7%)が続く。

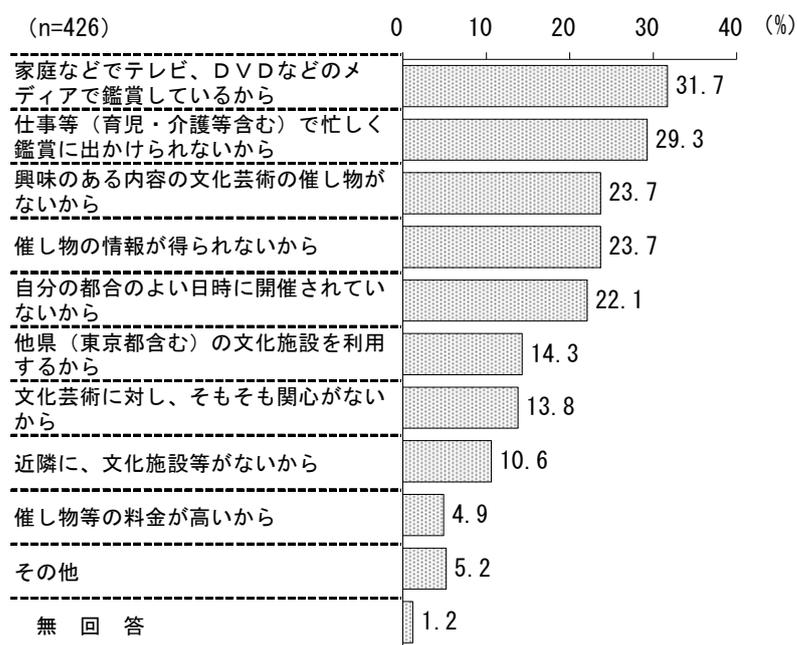
一方、「鑑賞したりふれたりしたものはない」(29.5%)が全体の約3割となっている。



(3) この1年間に県内の文化芸術にふれなかった理由

(複数回答：いくつでも)

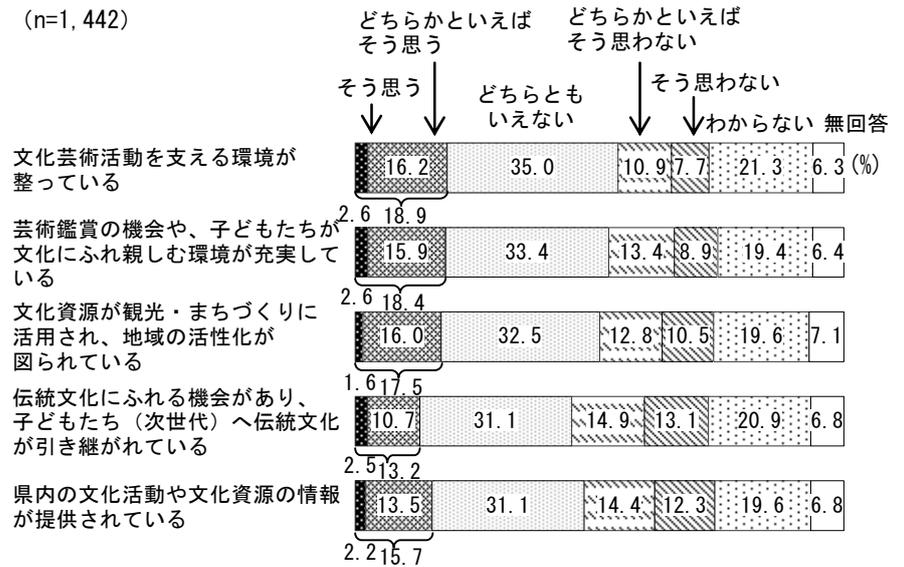
この1年間に県内で文化芸術を「鑑賞したりふれたりしたものはない」と回答した426人について、文化芸術にふれなかった理由を聞いたところ、「家庭などでテレビ、DVDなどのメディアで鑑賞しているから」が(31.7%)で3割を超えて最も多く、以下、「仕事等(育児・介護等含む)で忙しく鑑賞に出かけられないから」(29.3%)、「興味のある内容の文化芸術の催し物がないから」「催し物の情報が得られないから」(ともに23.7%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(22.1%)となっている。



(4) 文化振興にあたっての県の取り組み評価

文化振興に関する県の取り組み評価では、いずれの項目も「どちらともいえない」が3割を超えて最も多くなっている。

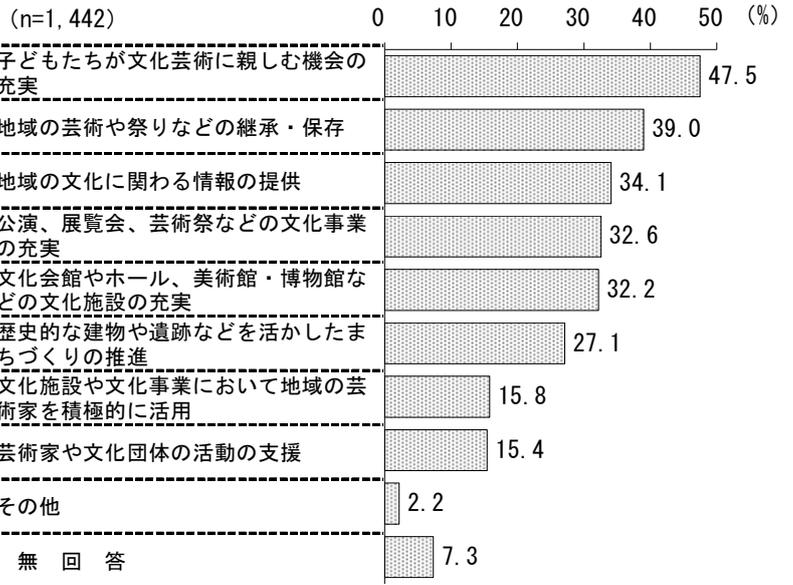
(n=1,442)



(5) 地域の文化的環境に必要なこと

(複数回答：いくつでも)

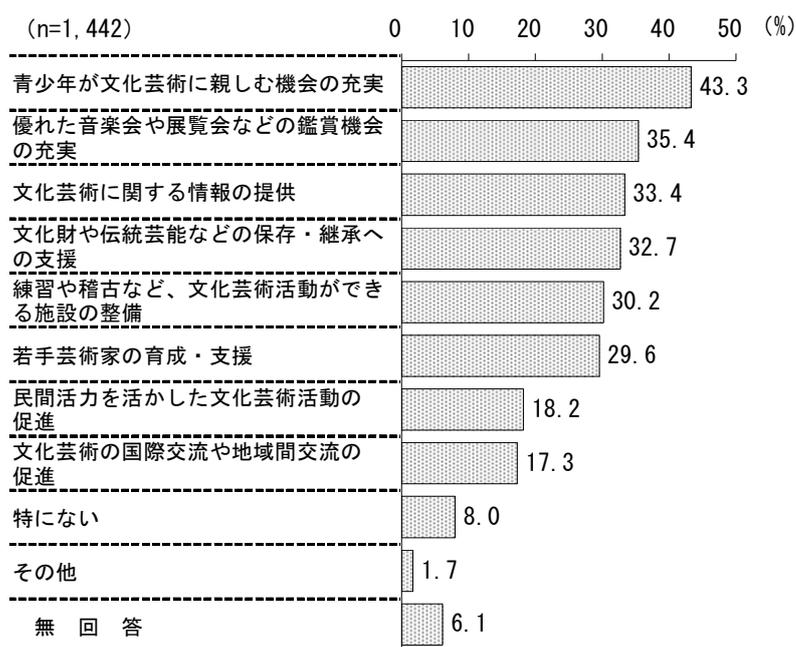
地域の文化的環境を満足できるものとするために必要なこととして、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(47.5%)が約5割と最も多くあげられ、以下、「地域の芸術や祭りなどの継承・保存」(39.0%)、「地域の文化に関わる情報の提供」(34.1%)、「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」(32.6%)、「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」(32.2%)となっている。



(6) 文化芸術を振興するために県が果たす役割

(複数回答：いくつでも)

文化芸術を振興するために県が果たす役割として、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」(43.3%)が4割台半ばと最も高く、以下、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」(35.4%)、「文化芸術に関する情報の提供」(33.4%)、「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」(32.7%)、「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」(32.7%)となっている。



《「県民の文化芸術活動について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、89人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

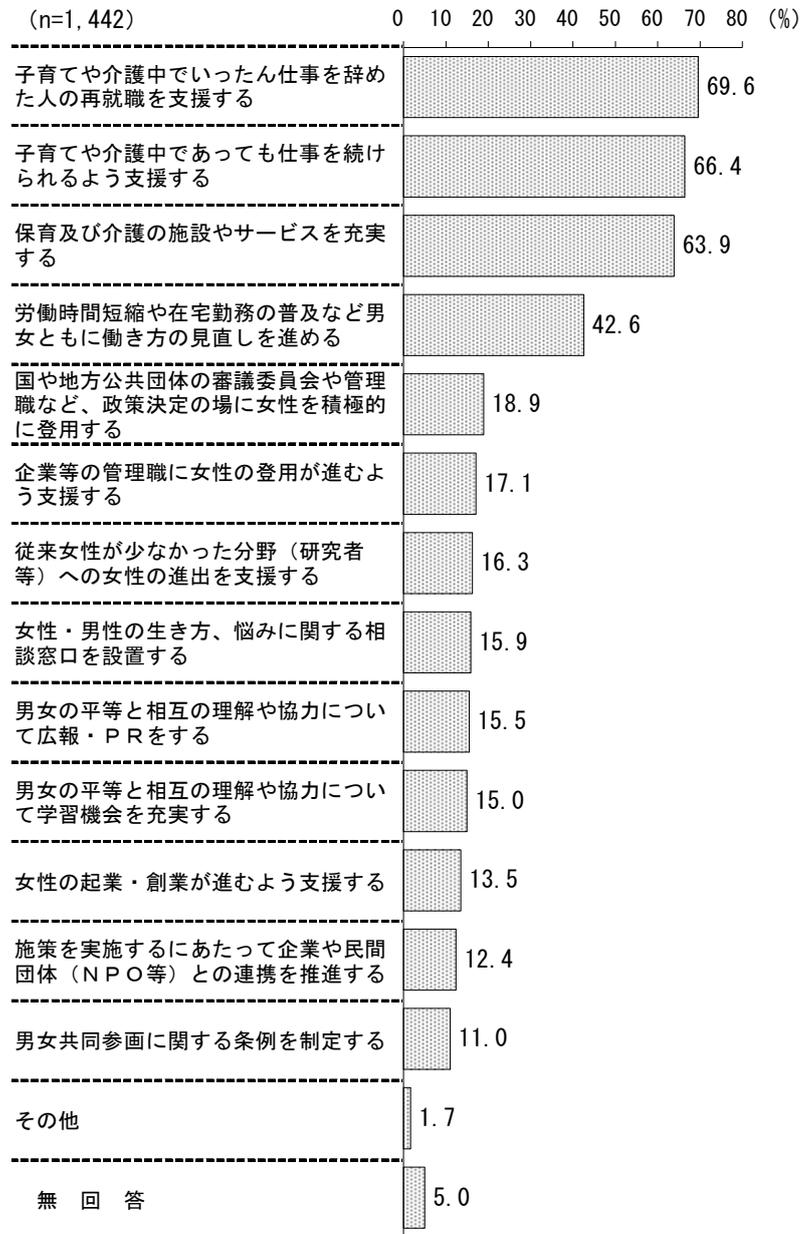
- 千葉県でも伝統芸能が沢山あると思います。地元でやっている伝統芸能をもっと県で取り入れて新聞、報道等で大きく取り入れられてもっと千葉を知ってもらえると楽しい県になると思います。(女性、40代、海匝地域)
- 自分の興味のあるものは、聞いて、見て、さわって…やってみたい…と思います。ぜひそんな機会があったら…と思います。(男性、65歳以上、君津地域)
- 若者が文化の継承者となれるよう、触れる機会を増やすと同時に、民間で歴史的な文化芸術活動に取り組もうとする主体には、予算や課税などで優遇できるような仕組みを考えていけないものかと思う。(女性、50代、君津地域)
- 小学生のうちから多様な文化芸術に触れる機会を増やして欲しい。また、高齢者なども安く近くで楽しめる催しを増やし、情報に触れやすくして欲しい。(女性、30代、葛南地域)
- 広報などで発信されていると思うが発信力が足りないと思われる。チラシやポスターを充実させた方が良いと思う。(男性、50代、東葛飾地域)
- 市によって差があるとは思いますが、もう少し市全体が芸術に興味を持てるように取り組むべきだと思う。また、地元の芸術家を支援する事で、市民も応援しようという気持ちが生まれ、活気づくと思う。(女性、30代、千葉地域)

9 男女共同参画社会の形成促進について

(1) 今後、行政が力を入れるべきこと

(複数回答：いくつでも)

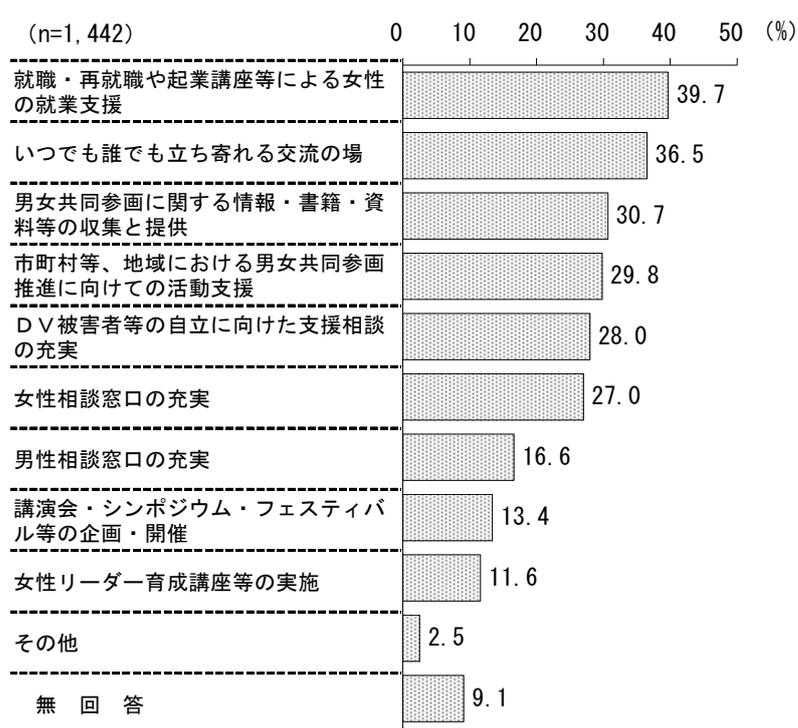
男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力を入れるべきこととして「子育てや介護中でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(69.6%)が約7割と最も多くあげられ、以下、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(66.4%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(63.9%)、「労働時間短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」(42.6%)となっている。



(2) 「男女共同参画センター」で充実すべき事業

(複数回答：いくつでも)

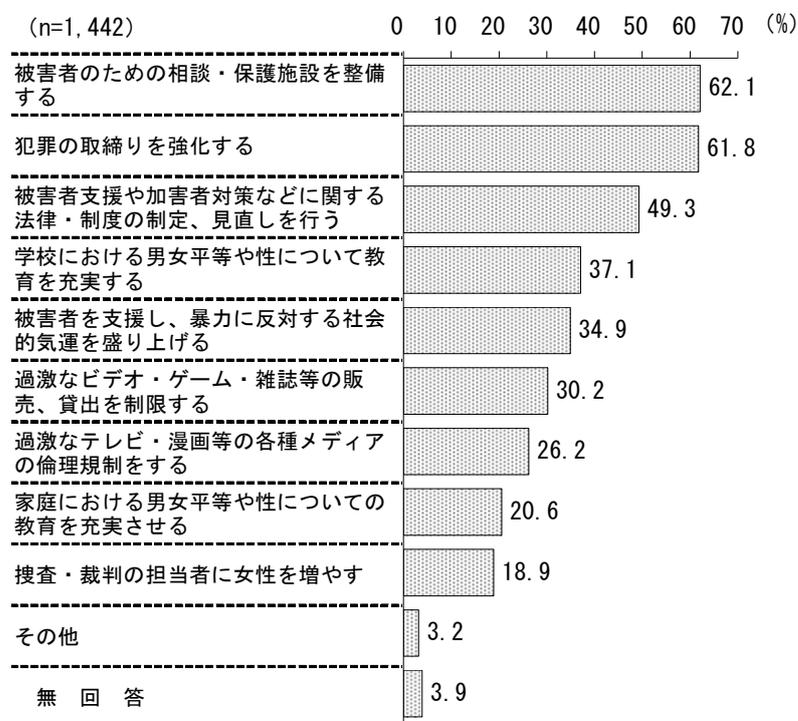
「男女共同参画センター」で充実すべき内容は、「就職・再就職や起業講座等による女性の就業支援」(39.7%)が約4割と最も高く、以下、「いつでも誰でも立ち寄れる交流の場」(36.5%)、「男女共同参画に関する情報・書籍・資料等の収集と提供」(30.7%)、「市町村等、地域における男女共同参画推進に向けての活動支援」(29.8%)、「DV被害者等の自立に向けた支援相談の充実」(28.0%)、「女性相談窓口の充実」(27.0%)、「男性相談窓口の充実」(16.6%)、「講演会・シンポジウム・フェスティバル等の企画・開催」(13.4%)、「女性リーダー育成講座等の実施」(11.6%)、「その他」(2.5%)が続く。



(3) DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこと

(複数回答：いくつでも)

DVやセクハラ、ストーカー行為をなくすためにすべきこととして「被害者のための相談・保護施設を整備する」(62.1%)、「犯罪の取締りを強化する」(61.8%)が6割を超え、多くあげられている。以下、「被害者支援や加害者対策などに関する法律・制度の制定、見直しを行う」(49.3%)、「学校における男女平等や性について教育を充実する」(37.1%)、「被害者を支援し、暴力に反対する社会的気運を盛り上げる」(34.9%)となっている。



《「男女共同参画社会の形成促進について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、99人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

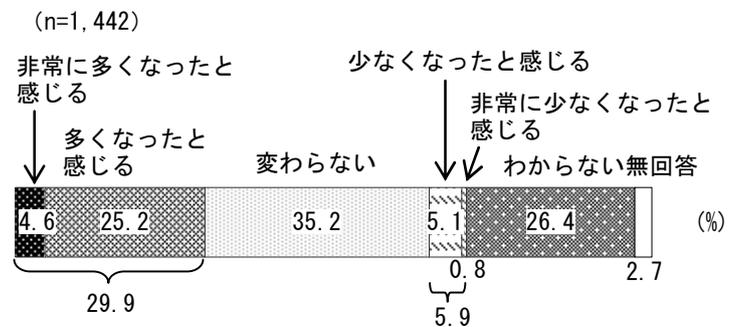
- 子育てや介護などで一旦仕事を辞めざるを得なかった方への支援は、早急を実施すべきだと思う。又、企業の理解も重要である。企業リーダーの意識改革をお願いしたい。
(男性、40代、東葛飾地域)
- DVなどから逃げるシェルターの様なものをもっと分かりやすくした方がいいと思う。逃げる為の協力を積極的に行い、逃げる勇気を与えてあげた方がいいと思う。
(女性、30代、東葛飾地域)
- 今の男女平等は偽りのように見える。本来は男女関係なく、適切な能力を持った者を登用すべきところを、男女何名ずつとすれば、おかしな事になると思う。(男性、30代、千葉地域)
- やはり子供の時からの教育が一番大事だと思います。大人になってからでは無理です。
(女性、60～64歳、葛南地域)

10 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

(1) 居住地域における最近の犯罪発生状況

住んでいる地域で最近の犯罪の発生状況を、「非常に多くなったと感じる」(4.6%)、「多くなったと感じる」(25.2%)を合わせた『多くなったと感じる』(29.9%)は約3割である。

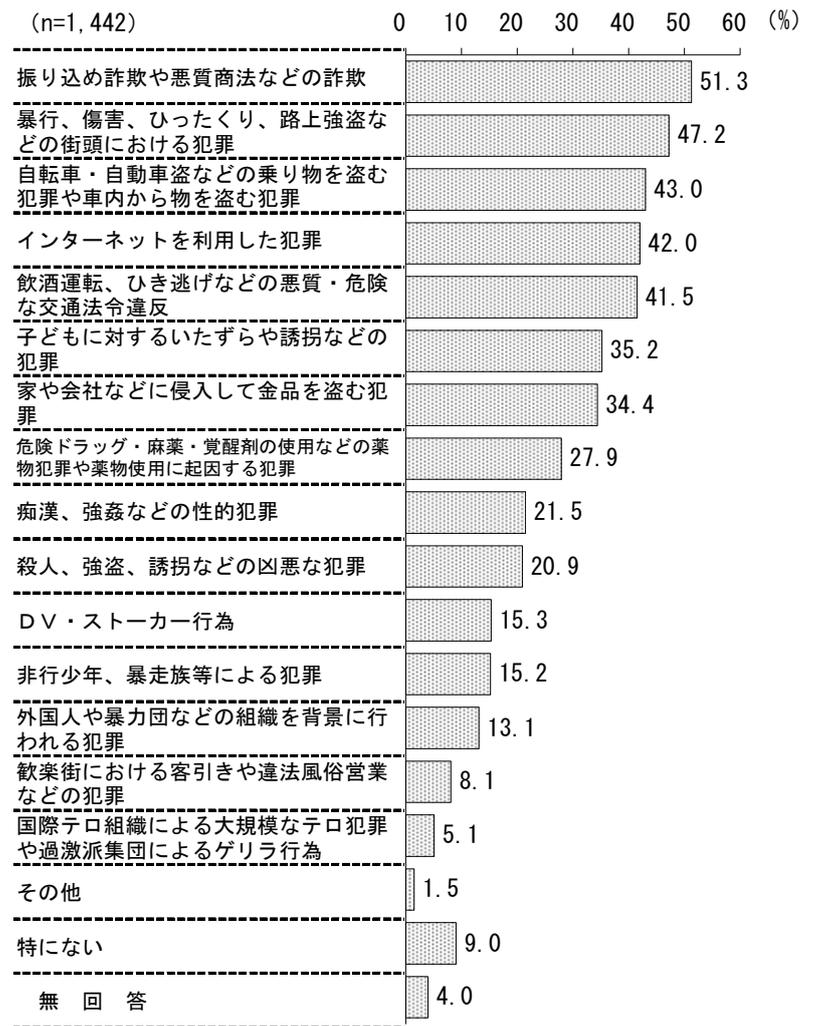
一方、「少なくなったと感じる」(5.1%)、「非常に少なくなったと感じる」(0.8%)を合わせた『少なくなったと感じる』は5.9%となっている。



(2) 身近な人が巻き込まれる危険性について不安を感じる犯罪

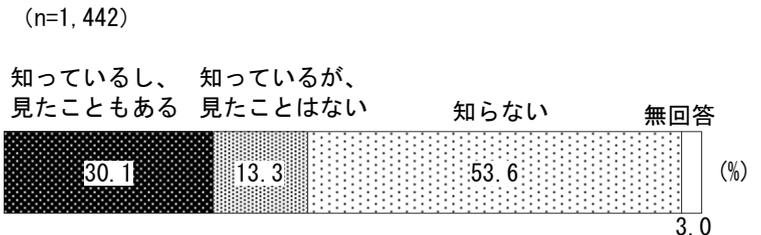
(複数回答：いくつでも)

身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じる犯罪として「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」(51.3%)が5割を超えて最も多くあげられ、以下、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」(47.2%)、「自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」(43.0%)、「インターネットを利用した犯罪」(42.0%)、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」(41.5%)、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(35.2%)、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(34.4%)、「危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪」(27.9%)、「痴漢、強姦などの性的犯罪」(21.5%)、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」(20.9%)、「DV・ストーカー行為」(15.3%)、「非行少年、暴走族等による犯罪」(15.2%)、「外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪」(13.1%)、「歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪」(8.1%)、「国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為」(5.1%)、「その他」(1.5%)、「特になし」(9.0%)、「無回答」(4.0%)が続く。



(3) 移動交番車の認知度

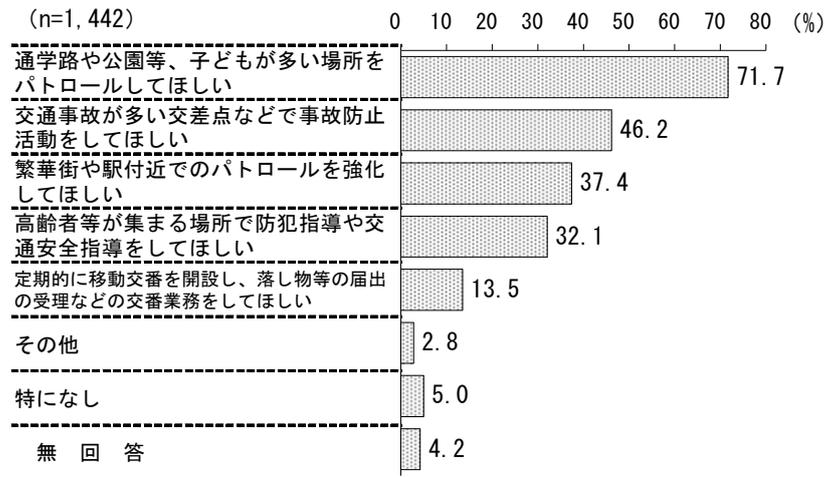
移動交番車を「知らない」(53.6%)が5割を超えており、「知っているし、見たこともある」(30.1%)は3割である。



(4) 移動交番車の運用に期待すること

(複数回答：いくつでも)

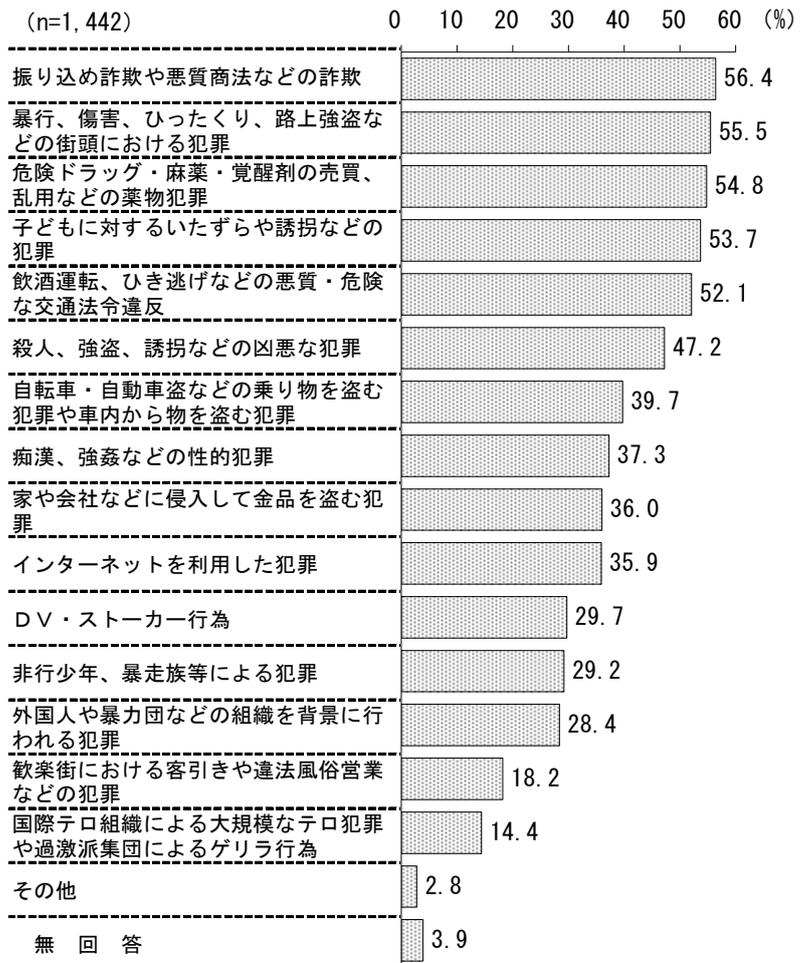
移動交番車の運用に期待することは、「通学路や公園等、子どもが多い場所をパトロールしてほしい」(71.7%)が7割を超えて最も多く、以下、「交通事故が多い交差点などで事故防止活動をしてほしい」(46.2%)、「繁華街や駅付近でのパトロールを強化してほしい」(37.4%)が続く。



(5) 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

(複数回答：いくつでも)

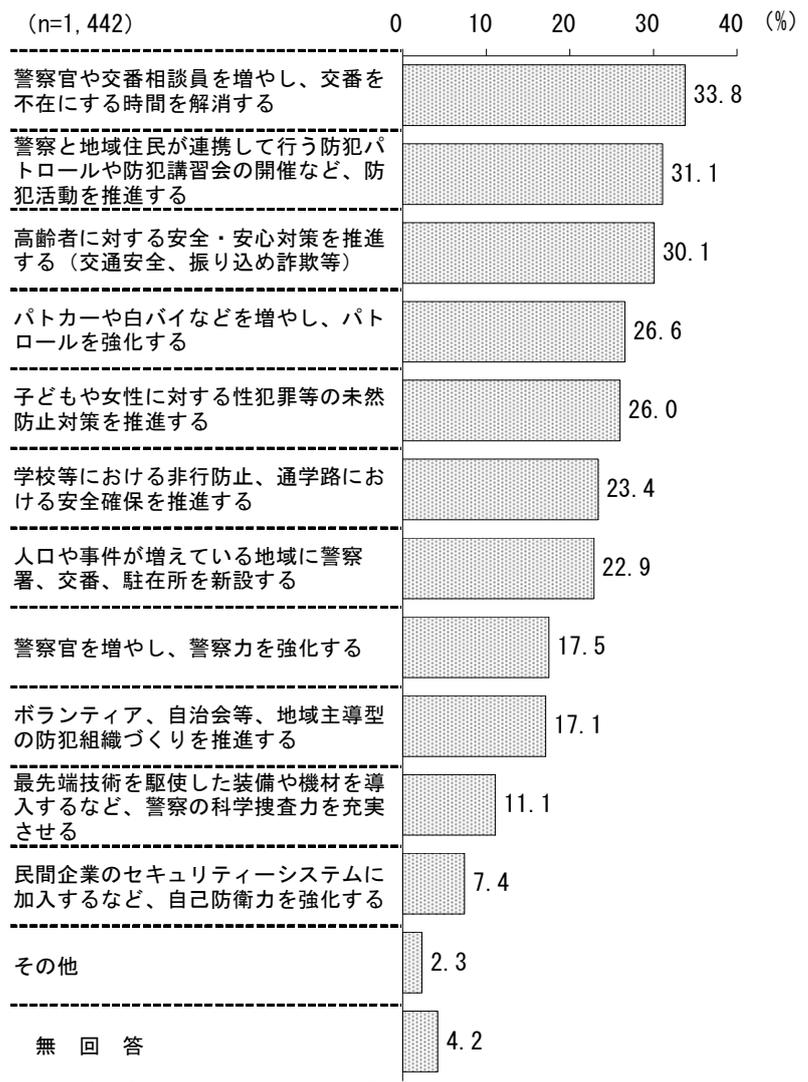
警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪は、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺」(56.4%)、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」(55.5%)、「危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪」(54.8%)、「子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪」(53.7%)、「飲酒運転、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反」(52.1%)が5割以上と多い。



(6) 安全で安心できる生活を守るために必要なこと

(複数回答：3つまで)

安全で安心できる生活を守るために必要なこととして3つまで選んでもらったところ、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」(33.8%)が3割台半ばと最も多く、以下、「警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する」(31.1%)、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する(交通安全、振り込め詐欺等)」(30.1%)が続く。



《「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答(抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、137人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 青色の防犯灯のパトロールカーが地域の中を走っているのを見かけますが防犯の役目も安心感もありとてもいいことだと思います。(女性、65歳以上、千葉地域)
- 外国人による犯罪等も増加傾向にあるように思います。何らかの対応策が必要ではないでしょうか。(男性、65歳以上、東葛飾地域)
- 警察官が不足している分、OBをもっと積極的に活用し、地域の防犯講習会等での手助けをして頂く。(男性、60～64歳、東葛飾地域)
- 女子児童が誘拐される事件が起きています。地域のパトロールを強化してほしい。移動交番は見たことありません。自分の近くにぜひ来てほしいです。(女性、60～64歳、東葛飾地域)

○犯罪や事故について、夜中のパトロールをもっと徹底的にやっていくことで防げることが多いと思います。本当に犯罪等を防ぎたいと思えば、警察官やボランティア等を利用してパトロール強化をすべきだと思います。（女性、40代、海匠地域）

○身近な場所で起こっている犯罪や被害の情報を得る機会がないので、情報提供の場が生活圏内にあれば良いと思います。（女性、20代、東葛飾地域）

11 社会全体での暴力団排除の推進について

(1) 千葉県暴力団排除条例の認知度

千葉県暴力団排除条例が制定されていることを「知らない」(52.1%)が5割を超えている。

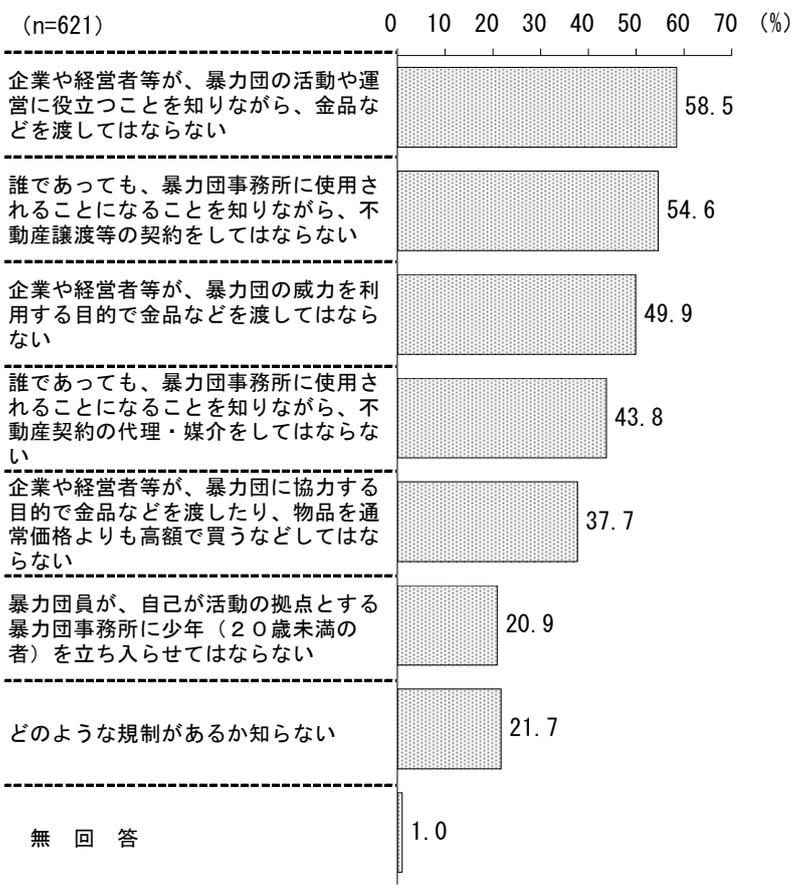
一方、「よく知っている」は5.1%となっている。



(2) 千葉県暴力団排除条例の規制内容の認知度

(複数回答：いくつでも)

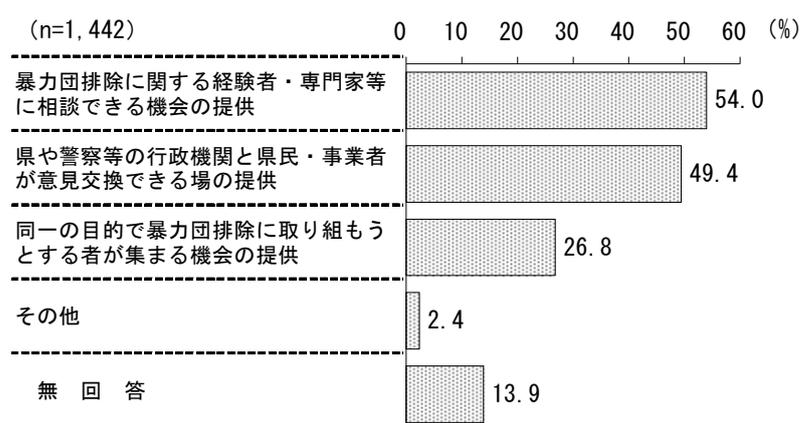
千葉県暴力団排除条例が制定されていることを「よく知っている」、「多少は知っている」を合わせた『知っている』人(621人)に、規制等の内容で知っているものを聞いたところ、「企業や経営者等が、暴力団の活動や運営に役立つことを知りながら、金品などを渡してはならない」(58.5%)が約6割で最も多く、以下、「誰でも、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない」(54.6%)、「企業や経営者等が、暴力団の威力を利用する目的で金品などを渡してはならない」(49.9%)、「誰でも、暴力団事務所に使用されることになることを知りながら、不動産譲渡等の契約をしてはならない」(43.8%)が続く。



(3) 暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援

(複数回答：いくつでも)

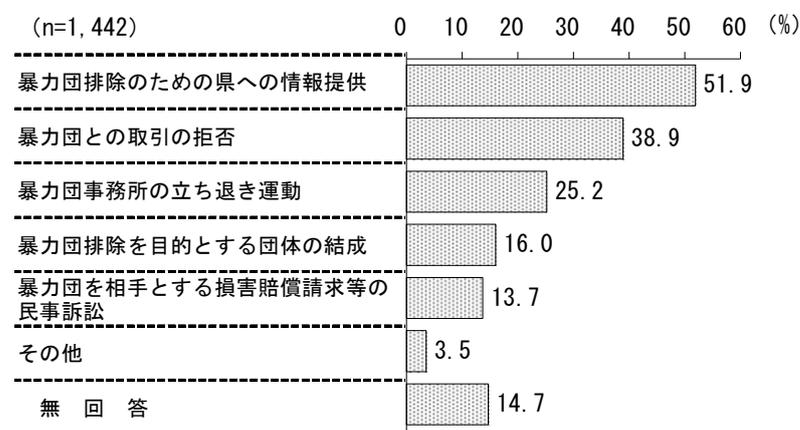
暴力団排除の取組に参加する上で必要な支援として、「暴力団排除に関する経験者・専門家等に相談できる機会の提供」(54.0%)が5割台半ばで最も多く、次いで「県や警察等の行政機関と県民・事業者が意見交換できる場の提供」(49.4%)となっている。



(4) 暴力団排除の取組で参加する内容

(複数回答：いくつでも)

暴力団排除の取組で参加する内容では、「暴力団排除のための県への情報提供」(51.9%)が5割を超えて最も多く、以下、「暴力団との取引の拒否」(38.9%)、「暴力団事務所の立ち退き運動」(25.2%)が続く。



《「社会全体での暴力団排除の推進について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、76人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 1人だと言い負かされてしまいそうですが、一丸となってできれば何とかできるのかもしれないね。(女性、20代、葛南地域)
- 実際こわい。プロの相談窓口が必要。(男性、30代、東葛飾地域)
- 暴力団にかかわり拒否した時、仕返し等の不安がある時に、どこに相談・報告すればよいか？警察が真剣に聞いてくれるか不安。(女性、30代、葛南地域)
- 暴力団は凶悪事件を起こしたり、オレオレ詐欺にも関わっています。このような社会悪に通じる組織は、更に社会運動を強化し、無くす様にしていきたいと思います。
(女性、65歳以上、長生地域)
- 暴力団とは、基本的に余り係りをもたない。事が起こったら泣き寝入りしない。警察に届ける。当り前のことを当り前に勇気を持って解決して皆が楽しく生活できるような世の中を。
(女性、65歳以上、君津地域)

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、260人から延べ314件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形（合計30項目）で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○今、県が何をしてくれているのかが、とにかくわかりづらい。いろいろなものに手をつけるのではなく、優先順位を決めて1つ1つ片づけていってほしい。また、県民が何を必要としているのかをよく見極めて頂きたいです。（女性、20代、東葛飾地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○3歳の娘がなかなか保育園に入れません。待機児童を減らして行って欲しいです。共働きの収入でないと、なかなか養えないので。（男性、30代、葛南地域）

■道路を整備する

○道路整備など地域差がある様に感じます。もっと危険な所から整備して頂けるように検討して下さい。（女性、40代、葛南地域）

■高齢者の福祉を充実する

○高齢者、障害者に優しい安心して暮しが続けられる様な制度をもっと作ってほしい。県独自の物でも良いと思う。福祉サービスなど介護保険だけではまかなえない人もたくさんいるので、低料金・無料であればとても助かると思いますのでよろしくお願い致します。（男性、65歳以上、海匝地域）

■便利な交通網を整備する

○県内の移動をもっと便利にしてもらいたい。柏→千葉だと車は国道16号があるが、電車だと船橋経由になる。県の行事があるとたいがい千葉市で行われる為、移動が面倒である。（男性、40代、東葛飾地域）

■県政の情報発信について

○このアンケートを読んで、県政にほとんど関心が向いてなく、新聞に入ってくるちば県民だよりも、旬のレシピちばの味だけ見ていたので、これがいい機会となると思います。（女性、60～64歳、山武地域）

■観光を振興する

○観光等アピールを強化し、千葉県を一人でも多くの人に知ってもらうようにして欲しい。地域の名産品等をアピールする機会を増やし、周知して欲しい（千葉県は落花生だけが名産ではなく、様々なものがあることを一人でも多く知ってもらいたい）。（男性、20代、葛南地域）

■犯罪防止対策をすすめる

○若い女性や小さい子供に対する犯罪が増えています。ボランティア等を通して見守り隊を作ってください、警察、市役所等を通して管理できる体制があると良いと思われれます。すきのない町や市であれば犯罪を防ぐ事ができます。又、生活保護で身体に障害を持っていない方やハローワーク等で職を探している方に優先的にボランティアの参加をし社会に貢献できる様にしてほしいです。（女性、40代、海匝地域）

■障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する

○障害者（身体、知的、精神等）、生活保護者に対する雇用の職業支援制度について、国の方針に基づき（事業者で2%の雇用）、県並びに市町村に相談窓口を設置し、民間業者、NPO、ハローワークと連携し、就労支援を積極的に活動援助して下さい。就労することにより、所得の増大、生活が安定します。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

【世論調査に関する意見（抜粋）】

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、172人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 千葉県民になって3年半が過ぎました。この調査を通じて、知らない事だらけだとつくづく感じたと同時に、もっと千葉県の事を勉強しなければと思いました。（女性、60～64歳、君津地域）
- この「世論調査票」が届いたのが11月末で、今年は12月に総選挙があるなど気忙しく、時期をもう少し早くするなどしていただけたら、ゆっくり考えられるのにと感じました。（女性、60～64歳、葛南地域）
- 今回の世論調査の質問事項は70歳以上の高齢者にはちょっと難しいような気がしました。そしてまた質問事項が多過ぎる。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 今回初めて世論調査に参加したが、今までなんとなく不満に思っていた事など、言葉にして書く事が出来て良かったと思う。もっと調査対象の人数を増やしてもいいのでは…。みんな自分の県を良くしたいと思っているのは間違いないから、協力したいです。（女性、30代、東葛飾地域）
- サラッと書いたのですが、字が汚くて申し訳ないです。こういう調査をやっていることは、これがきて初めて知りました。県民にしろ国民にしろ、民が思っていることを言える機会があるのはいい事だと思います。普段の生活で思っている事はたくさんあるので、こうやって意見が言える機会はもっとあっていいと思います。（女性、20代、千葉地域）
- 設問が多く、内容も難しいものが多かったように思います、多少負担に感じるアンケートではありません。（男性、30代、印旛地域）
- 調査用紙を見て、いかに自分が世間を知らないかということが、分かったような気がします。県政に対しても無関心で、自分に何かなければ、そのまま過ごしてしまい、少し考えなければと思いました。（女性、65歳以上、安房地域）
- ネットでの対応も可になるようにしてほしい。（男性、50代、葛南地域）
- このような調査がある事を知りませんでした。地域、社会について考える事ができてよかったです。日常生活で思っている事や考えている事を伝える事ができてよかったです。県民一人として意見を述べる事ができ、うれしいです。（女性、40代、君津地域）